

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	新見市立大佐中学校	実践者名	河崎純平
教科等	総合的な学習の時間	学年	第2学年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
育成したい 資質・能力	戦争を経験した方との交流を通して、平和に対する意識を育成する。		
単元・内容等	シベリア抑留経験者と大佐中学校とのオンライン環境を利用した遠隔授業		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	対面授業を実施する数週間前に、新型コロナウイルス感染を理由とした学級閉鎖中に Zoom を利用した遠隔授業を数日経験済み。		

活用の概要（使用アプリ名を含む）

- ・ 1学期から継続して行っている平和学習の終盤の活動としてシベリア抑留に関する学習を行った。
- ・ 東京にある平和記念資料館にいるシベリア抑留経験者と新見市にある大佐中学校をタブレット端末にある Zoom を利用し、交流を図った。
- ・ 語り部の方が当時の状況を話してくださっている間、Zoom 画面上に現存する資料などを提示することで内容のさらなる理解を図った。



↑パソコン1台＋タブレット2台を Zoom でつなぎ
教室内の大型提示装置に移す

実践者の手ごたえ	児童生徒の振り返りや反応等
実際に対面しているわけではなく、オンラインでの講話ではあったが、生徒一人一人が真剣に話を聞き、平和の大切さの理解につながった。また資料等をスライドで画面共有を行い、確認しながら話を聞けたので、より分かりやすく生徒に伝わったように感じた。	(生徒の振り返りより) 「今回の〇〇さんの講話を聞き、将来自分が大人になったときにも、戦争は絶対にしないように訴えていきたい。」 「シベリア抑留を経験した方の話を聞くことで当時の辛い様子を知ることができました。」